

## 第8回山県市まち・ひと・しごと創生会議 会議録（要点筆記）

- 【日時】 平成30年6月12日（火）13:30～15:30
- 【場所】 山県市役所3階大会議室
- 【出席】 会長 竹内 治彦 岐阜経済大学 教授  
委員 田上 隆 市自治会連合会代表  
宇野 睦 市商工会 会長  
佐伯 岳人 JA岐阜 高富支店長  
早川 徹 (株)水生活製作所 代表取締役社長  
杉山多美子 市校長会代表  
小森 利樹 十六銀行高富支店長  
大竹 裕幸 代理出席（大橋一城）大垣共立銀行高富支店長  
浅井 一智 岐阜信用金庫高富支店長  
高原 達夫 岐阜公共職業安定所 雇用開発部長  
木村 麻理 社会保険労務士  
古田 浩康 岐阜新聞社 本巢支局長  
鳥居 彩子 中日新聞社 記者  
臼井 浩美 岐北厚生病院 事務局長  
丹羽 英之 市社会福祉協議会 会長  
今瀬 義幸 元岐阜県職員  
宇野 邦朗 副市長
- 事務局
- 久保田裕司 企画財政課長  
谷村政彦 企画財政課主幹  
岡田陽樹 企画財政課係長
- 【欠席】 副会長 黒見敏丈 岐阜女子大学 教授  
委員 武藤行儀 岐阜乗合自動車 常務取締役
- 【次第】 1. 会長あいさつ  
2. 議事  
(1) 地方創生事業の評価・検証について  
(2) 山県市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について  
3. その他
- 【資料】 資料1 レジюме  
資料2-1 平成27年度 地方創生先行型交付金事業から得られた知見について

資料2-2 平成28年度 地方創生加速化交付金事業から得られた知見について  
資料2-3 平成29年度 地方創生関係事業の評価・検証について  
資料3 平成29年度 地方創生交付金事業関係資料  
資料4 山口市総合戦略（平成30年6月12日改訂（案））  
資料5-1 山口市の地方創生交付金関係事業の概要  
資料5-2 人口動態（年齢別）  
資料6-1 岐阜県山口市「若者世代の移住・定住と女性の活躍を目指す」  
資料6-2（自治体職員向け）「RESAS地域経済循環マップ・地域産業連関表  
研究会」結果報告（説明資料・分析事例）の公表について  
資料7-1 田舎暮らし推奨加速化事業  
資料7-2 山県の水栓バルブ製造業リノベーション事業  
パンフレット 一式

---

■ 事務連絡

当日資料配布について報告

委員の交代、代理出席、欠席委員について報告

■ 会長あいさつ

■ 事務局 要綱第7条第1項の規定により、会長に議長を依頼する。

【議事】

会 長 議案について、事務局に説明を求めます。

事務局

山口市まち・ひと・しごと創生会議の前回会議の概要について説明

事務局

平成27年度地方創生先行型交付金事業、平成28年度地方創生加速化交付金、2事業について得られた知見について説明（資料番号2-1、資料資料番号2-2）

○会長 平成27、28年度事業の効果検証については、委員の皆さまにお目通ししていただき、意見があれば、事務局宛にお送りください。

事務局

平成29年度地方創生推進交付金（田舎暮らし推奨加速化事業）・（水栓バルブ発祥の地・山県の水栓バルブ製造業）平成29年度拠点整備推進交付金（日帰り観光拠点「伊自良湖」リノベーション事業）3事業について説明（資料番号2-3、資料番号3）

- 会長 意見があれば、お願いします。  
シティプロモーション事業については、継続して事業を行って来て成果があがっていると思います。
- A委員 伊自良湖、四国山香りの森公園で実施した事業の説明があつて、交流人口34万人は難しいという説明だが、どういう仕掛けで人を集めるのか？四国山については、指定管理で委託しているから自主事業で展開していくということになってしまっている。最近、付近の桜並木が立派になったことや、中学校駅伝の県大会も行われるなど良い条件もあるので、四国山香りの森公園を拠点としてどう活用するのか？ウォーキングコースも含めて、四国山を出発点として、伊自良湖の恋人の聖地まで行って戻ってくる。42.195kmのウォーキング大会を行うのはどうか？観光拠点を使った積極的な仕掛け作りを考えないといけないと思う。
- まちづくり・企業支援 課長 そのとおりで、事業を仕掛けていかなければいけないのかなと思っております。桜並木につきましては、サイクリングロードになっていますので、自転車の利用も広げられないかなと思っておりますし、ラブレイク、四国山香り会館、みやまキャンプ場の3施設で共同して何かできないか、話しをしつつある状況です。
- B委員 20代後半の男女にかかわらず、山県市に住む人たちと交流がある中で、ラブレイクという名前が辛いという指摘があります。いわゆるハートブレイクを逆に連想してしまう。ラブレイクになってから一度も足を運んでいないという若者の声を聞き、ショックを受けました。  
また、連携していくというお話がありました。各施設で事業を行っていますので、ソフト事業を連携して行うことは、大変なことだと思います。観光などのソフト事業をみんなで行うような協議会とか、会社化できればベストですが、そういう組織を使っていれば、1本化できるのでないかと思えます。  
地方創生事業は、課をまたいで事業実施していますので、シティプロモーション事業と移住・定住事業と連携がとれていないように思えます。シティプロモーション事業の知見で、重視するポイントとして、自然環境と子育て環境、移住に関しては、仕事と住まいが突出している。私も、移住・定住事業で就労体験のツアーを行って来て、まさにそのとおりだと思います。ある会社の就労体験で就職したいと考えていた、ご夫婦がみえましたが、住居が決まらなかったため、断念されたケースもあります。情報を一元化するためにも連携してほしいと思います。

- 事務局 月に一度必ず、請負業者と関係課が集まって合同会議を行い、情報共有をしています。どこか共有できていないと感じるところがありましたらお聞かせ願いたい。
- B委員 まち・ひと・しごと創生総合戦略がどこに向かっているのか？子育てに特化するのか、交流人口に特化するのかそういうところが見えてこなかった。今後、総合戦略を生かしていくには、どこに軸足を置き、どこに向かうのかが分からなければ、連携がとれていないということだと思います。
- 会長 全体的に何を指すのかというところについては、地方創生の戦略は総合的なものになっているので、平成27年、28年、29年というところで、いろいろ軸足が変わってきているのは珍しい。最初に打ち出したものがずっと続いていく。そういうところで、ポイントがどこなのかという質問は理解できる。
- C委員 平成27年度から平成29年度の事業を行って、市から得た知見についての報告を頂き、それに対して平成30年度をどのようにするかということに対して、意見を述べるということによろしいですか。
- 会長 今の議論は、平成29年度までの反省ということですね。
- 事務局 平成30年度に行う事業は決まっていますが、反省を踏まえて来年度に向けて、ご意見をいただきたい。
- C委員 バルブ産業についてのリノベーション事業は、今、始めていただいた感があって、私自身動きを感じて、動いていかなければと思っています。観光については、この事業で作成した冊子などを地域の人々や子どもたちにどのように伝播していくかが必要だと思います。観光については、いろいろ掘り起こしを行った中で、山口市だけの観光資源だけで成果を求めるのではなく、周りの市町と連携をとりながら、事業を行っていくことが必要なのでは。
- 会長 山口市には、説明不要のキラーコンテンツがないところが観光が弱いと言われることだと思います。今回、東京でプロモーションを行っているが、交流人口を増やすターゲットをどこに置いているか、何にスポットを当てているか見えにくい。伊自良湖であれば、名古屋圏の方以上の集客力は見込めない。もしかすると岐阜市地域くらいの集客力かもしれない。

みやまキャンプ場、四国山、伊自良湖は昭和的なコンテンツという感じで、それほど集客力は見込めないと思う。体験型のコンテンツは、比較的中山間地域でハード的な観光コンテンツがない所で行われている。東京でプロモーションを行うのであれば、外国の方に体験してもらう何かできないのか？そのほうが発信力が大きいという見方もできる。交流人口をどうやって作っていくのかと、ターゲットの絞り方を考える必要がある。岐阜市と一緒に何かできないと、大きな集客力のあるものは生まれにくいと思われる。

事務局 東京でプロモーションを行ったのは、観光としてではなく、移住者をターゲットとして行いました。

観光では、岐阜地域、名古屋圏が中心になると考えています。

連携についてはとても重要で、岐阜市が岐阜連携中枢都市圏を宣言し、近隣4市3町で行っていきます。今後、歴史など連携を深めて発信していきたいと考えています。

○C委員 外国人観光客は山県市にどれくらい訪れるか？統計的なものはあるか？岐阜県は外国人観光客を呼ぶ仕掛け作りを一生懸命行っている。山県市も外国人観光客を呼ぶために、県の戦略に乗かって、周辺市町と連携を考えて、何か山県市に訪れてもらう拠点が作れると面白い。

事務局 まずは国内と考えています。外国の方が観光目的で本市に立ち寄ったというのはデータのほうにはほんの一握りで、正確なデータはつかんでいません。

○会長 外国の方は、自分たちが経験したことのない、異国の文化を体験できることに喜びを感じている。歴史、文化でストーリーをつくるとか、自然の中をただ歩くのではなく、ストーリー性のあるコンテンツはあるのか。

事務局 市内の人がアメリカの子どもたちを含め、外国の方を本市に呼んだときにとっても喜んでいただという話も聞いておりますので、今後検討していきたい。

○会長 国際的な何か凄いものではなく、何気ない異文化を体験できるようなものがあれば可能性があると思います。  
次の山県市総合戦略改訂について説明をお願いします。

事務局 資料4、資料5-1、資料5-2を使って説明

○会長 KPIについて説明があつたのですが、出生数のところが165人から122人に落ち込んでいる。資料5-2については、社会動態ですか自然動態も

入っていますか？

事務局 両方入っています。

○会長 出生数は減っているが、平成27年度から平成29年度の1歳から5歳までの乳幼児の数が増えている。子育て世代の流入があるのでよかった。資料5-1のKPIについては、一部の数字が減少しているだけでかなりの部分が目標値を現状値が上回っていて、総合的に悪くない数字だと思います。そのうえで、地域の特性を活用した成長ものづくりを支援するとともに、を追加したいということですが、あえて追加しなければならないのか？

まちづくり・ 今後も水栓バルブリノベーション事業を行うために必要になります。

企業支援  
課長

○会長 水栓バルブリノベーション事業を進展させていくために、地域の成長を書き込む必要があるということですか。20代は転出、30代が転入、子ども達がいかに定着していくかが課題になる。

○B委員 子育て世代が、3歳以上保育料無料化を含めた事業を通じて、山口市へ戻ってきてくれるという感覚と合致してうれしく思う。平成31年度10月には、全国的に3歳以上保育園無償化を行う予定で、保育料無料化では移住者を見込めないと思う。子育て世代をターゲットとした、移住定住政策をもう一度考えなおす時期なのかと思う。少し低年齢化しての無料化と保育士の確保一緒に推し進めれば、保育に手厚いというインセンティブになる。何か魅力のある保育施策として、シティプロモーションの知見にもあった、自然環境と子育て環境の両方を魅力化する自然体験のプログラム化などを提案させていただきます。

○会長 包括的な会議ですのでここで意見をいただくのはたぶん無理、子育て支援会議とかで検討していただければよいと思う。

○C委員 ホームページがスマホ対応していない、発信していく、利用してもらおうという面においても改善してもらいたい。

事務局 ホームページについては、マチイロを利用することでスマホで閲覧できるよ

うにしました。画面表示については、見にくいという声もありますので今年度議論して、来年度向けに見やすいホームページになるよう考えています。

○会長 数値目標、交流人口34万人を41万人への見直しについてはどうか？

事務局 数値目標の数値は見直さない。

事務局 資料6-1、資料6-2について説明

事務局 資料7-1、資料7-2について説明

地方創生監 資料7-2について説明

○会長 資料7-1がわかりにくい。H30に行う事業か？

○B委員 新製品設備投資補助事業について内容を教えていただきたい。

地方創生監 目標として、補助金として1,500万円、上限500万円で3件が申請されると想定しています。1,000万円の機械を購入されれば、1/2補助の上限500万円が補助されます。1,000万円以上の機器購入についても上限500万円の補助になります。  
申請に当たって、企業は事業計画を立てる必要があります。先進性があるということと、近隣の大学と連携していることわかる必要があります。

○B委員 申請はありますか？

地方創生監 3件あります。

○会長 今年度事業、来年度事業の事業内容が記載されているということですね  
他の質問はよろしいですか、以上で会議を終了します。

――― その他の連絡等 閉会 15:30 ―――